



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: https://www.asachu-rc.jp



R.I. 会長 ジェニファー・ジョーンズ 地区ガバナー 嶋村 文 男

2022 - 2023 年度テーマ

クラブテーマ 「 前 進 」

クラブ会長 伊 石 佳 高

本日の例会（卓話）

炉辺会合報告会

今後の例会（卓話）予定

11/23	祭日（勤労感謝の日）	
11/30	「地震保険の重要性」	損保ジャパン 東京支店課長 湯澤 玲 様
12/7	「未 定」	青木伸翁 様
12/14	会員卓話	田村順二 会員

前回（11/9 1717 回例会）の記録

来 訪 者 紹 介

- ◆ゲスト 1名 2003～2004年度ガバナー 東京練馬西R.C. 戸田一誠^{いちじょう} 様
- ◆ビジター 0名

出 席 報 告

総会員数	休 会	出席免除	出 席	欠 席	出席率	修 正 出 席 率
47名	2名	7名	32名	8名	80%	

※2023年2月第1例会まで、新型コロナウイルス対策ガイドラインに則り、全員出席扱いとさせていただきます。

会長挨拶＜伊石会長＞

・皆さんこんにちは。2週間ぶりの例会となります。皆様のお元気そうなお顔を拝見してホッとしております。

まずは10/22～23に開催されましたフラフェス in浅草、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。3年ぶりの開催となりましたが沢山の観客の方々に非常に盛況の中、開催できました。また、同時開催の地区よりのポリオ撲滅募金及び環境委員会清掃活動も、会員の皆様のご協力のお陰で事故もなく無事に終える事が出来ました。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

本日は卓話にてパストガバナーの戸田一誠様

にお越し頂いております。「ロータリーはあなた次第」と題してのお話となります。非常に楽しみにしております。戸田様、どうぞ宜しくお願い致します。

・さて、本日は皆様に良いお話と悲しいお話をさせていただきます。良いお話は、先日の3日、文化の日に当クラブ会員の海内会員が旭日中綬章をお受けになりました。詳細を長沼会員よりご案内頂きます。

悲しいお話は当クラブチャーターメンバーであります吉田長二様がお亡くなりになりました。御年87歳。11月の誕生日で88歳の米寿のお祝いでしたが非常に残念です。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 合掌



2022年11月16日

第1718回例会

会長 伊石佳高
幹事 立野秀一



幹事報告<立野幹事>

- ①各クラブから例会変更の案内が来ております。事務局にてご確認ください。
- ②地区から12月3日に行われるイメージロータリーの案内が届いておりますので、

参加可能な方は事務局にて登録をお願い致します。

- ③例会終了後、第5回理事・役員会を開催いたしますので、該当の方はご出席宜しくお願い致します。

委員会報告

<社会奉仕委員会 長沼委員長>

- ・10月22日・23日、浅草神社におきまして、フラフェスin浅草を行ないました。会員の皆様におきましては、大変なご協力を頂きまして誠にありがとうございました。両日共に天候に恵まれ、フラフェスは東日本大震災の復興継続支援の意識をフラダンスと共に再認識頂けたのではないかと

思っております。改めまして、東京浅草中央RCの皆様の協力と友情に感謝申し上げます。

<国際奉仕委員会 斎藤委員長>

- ・RI世界大会が来年5月27日～31日、オーストラリアメルボルンにて開催されます。次回例会時に皆様に参加案内を配布いたしますので、よろしくお願いいたします。

ニコニコボックス

<伊石会長、立野幹事>

- ・本日の卓話「ロータリーはあなた次第」パストガバナー 戸田一誠様、宜しくお願い致します。

<江連、藤掛、五十嵐、岩戸、伊藤、小林、松丸、松本、長沼、中橋、中村、斎藤、佐藤、澤野、関原、内田、上野、上原、潮田、山尾>

- ・本日の卓話「ロータリーはあなた次第」パストガバナー 戸田一誠様、宜しくお願い致します。

<後上、片岡、太田、桜井、渡辺>

- ・東北復興支援継続を!!

<立野、土師、中村>

- ・お誕生日のお祝いをして戴きありがとうございました。

<立野>

- ・100%出席の表彰をして戴きまして誠にありがとうございました。

<炉辺Bグループ>

- ・炉辺Bグループ残金をニコニコします。大変盛会でした。

<高橋>

- ・結婚記念日に花束を戴きまして誠に有難うございました。



「ロータリーはあなた次第」



2003～2004年度ガバナー
東京練馬西ロータリークラブ
戸田 一 誠 様

- 1 私がロータリークラブに入会した当時、先輩から「戸田君、ロータリーとは『境地を求めて例会に至り、境地に至りて例会を去る』、そういう人々の集まりだ。忘れるな。」と言われました。

ここでいう「境地」とは精神的境地のことで、人々は精神的境地を求めて、ロータリークラブに集います。それは各自が考えるものです。

- 2 精神的境地の具体例を示します。池袋ロータリークラブに公式訪問をしたときのクラブ協議会における幹事さんの発言です。「あの人がいるからこのクラブに入りたいと思った。自分もいつかあの人のようになりたい」。私はこの発言を聞いて思わず感動し、感激しました。境地に到達した人がいるからこのクラブに入った、自分も将来その人のようになりたいとのこと。精神的境地を示す象徴的表現と思うので紹介しました。

- 3 最近のロータリーは忙しすぎる気がいたします。本来、ロータリークラブは、社会に有用で多忙な活動をしている人たちにとって息抜きの知的な余暇活動の場です。ある年度のガバナー補佐研修で、「それを専門職業かと思うほど忙しい」との愚痴をこぼしていたロータリアンがいました。これまでのロータリーの歴史的な慣習、伝統を伝えていかねばなりません。そうでないと、私たちのロータリーの本質が失われてしまいます。ロータリーに参加するということは「息抜き」を求めているということです。知的な息抜きを求める人たちの気持ちに答えなければならないと思います。国際ロータリーの方針を受け売りのような形で取り入れるのは良くないと思います。その方針のうち、日本に適しているものといないものを見極めてそれを会員に伝えるのがガバナーの役割です。

社会的に有用な事業に携わっている皆さんの息抜き、使命感のある息抜きが大事です。それに反する動きがあれば「それは違う」と発言していただきたいと思います。

- 4 社会奉仕活動は、ロータリアンに対し、社会（地域・世界）には如何なるニーズがあるかを知らしめる為の訓練であり、社会奉仕活動そのものが目的ではありません。ところが、最近のロータリークラブの中には社会奉仕活動そのものに重点が移ってしまっているかのようなクラブもあります。企業や団体のCSR活動が活発になると、ロータリーの地位は低下していき、存在意義が失われていきます。ロータリーは本来のあり方に立ち戻る必要があります。

ロータリーの最初の社会奉仕はシカゴの町の一角に公衆便所を設置することだっ

たといわれています。それまでは、トイレを借りるために近くのバーに入り、酒を注文したり、ホテルに入り、チップを渡してトイレを借りていてとても不便でした。いざ、公衆便所を設置しようとしたら、バーやホテルから反対の声が上がったり、ロータリーには「金持ちが沢山いるのにやることはみみっちい」などの批判を受けたりして、役所や地域社会の啓蒙活動をするのに数年かかりましたが、最後は役所が動いてくれて設置が可能となりました。そして、役所や人々が動き始めたらロータリーは手を引きました。この昔のロータリーの社会奉仕のように、社会の小さな火種をいち早く見つけ、社会や行政に引き継がせていくことが、ロータリーでいう社会奉仕だと思います。ロータリアン自身が汗水流して働くというのは少し違うと思います。

5 かつて、J.F.ケネディは、大統領就任直後の演説で、「国が諸君に何をしてくれるかを問う前に諸君が国に対して何が出来るかを考えたまえ。」と言いました。ケネディはロータリアンであり、ロータリーで学んだことを国に置き換えて言ったものと思います。

6 さて、もう一度、「境地を求めて例会に至り…」に戻りましょう。10月12日の日経新聞の「くらしナビ」で歴史学者の藤原辰史氏は、「山口県教育委員会は、いい大学に入りたい中学生が県外に流れることに危機感を抱き、造園や農業を学べる宇部西高校の募集停止を提案し、他方で中高一貫の進学校を整備する計画を発表した」ことを取り上げ、「世界に誇れる庭仕事、作物の栽培や料理文化、伝統技術は担い手が絶たれると二度と復活しない」という危機感を述べておられます。

国際ロータリーのポリオ活動は40年を迎えています。そのために資金調達が必要で、会員増強を強く打ち出しており、一業種一会員という原則が崩れ、誰でもロータリーに入れるようになりました。ロータリーの地位も下がってきているように思います。ロータリアンはロータリークラブに対して批判的視点を持つことも肝要です。

麴町ロータリークラブの新クラブ認証状伝達式に赴いたところ、壇上に国旗がありませんでした。その理由を尋ねると、新しいクラブには国籍の違う会員がいるのでその人のことを配慮して日本国旗を掲げていないとのことでした。しかし、日本のロータリークラブの例会なのだから、日本国旗を掲げるべきであろうと思います。

戦前の昭和8年、ロータリークラブがアメリカから入ったものであることから、右翼の一団が京都ロータリークラブに押しかけ「スパイ活動をしているだろう」と言ってきたことがありました。しかし、同クラブが国旗を掲げ、例会で君が代を斉唱している様子を見て、それ以上のトラブルにはならなかったとのことでした。

昭和10年日本橋ロータリークラブは、上記事件を教訓として、ロータリークラブの存続を願い、一つのロータリーソングを作りました。本来の歌詞は「世界に捧げん我らの生業」であったのを「御国に捧げん我らの生業」にして、同年の京都地区大会で発表し、全国に拡散しました。ただし、作詞者の前田和一郎氏(京都ロータリークラブ会員)は、いずれ本来の歌詞に戻せる時代がくるとよいと述べていたとのことでした。

壇上に国旗を掲げよというルールは無いように思いますが、国旗や国歌、ロータリーソングが嘗てロータリーの危機を救ったという歴史的事実を忘れぬ為にも、私たちは国旗に対する敬意表現しっかり身につけるべきだと思います。